



アジア地域の行政サービス向上を目指して ～ EROPA 会議 2019 に参加～

(一財)自治体国際化協会シンガポール事務所 所長補佐 薄田 郁美 (新潟県派遣)

EROPA とは

EROPA (Eastern Regional Organization for Public Administration) とは、アジア・太平洋地域の経済および社会の発展に資するため、各国の行政の質の向上を図ることを目的として、1960年12月に設立された国際組織です。EROPAには3つの会員構成(国家会員・団体会員・個人会員)があり、クリアは団体会員代表として参加しました。

EROPA 会議 2019 の概要

EROPA 会議 2019 は9月22日から26日にかけて、フィリピン・マニラで開催されました。クリアもメンバーとなっている第65回執行理事会では、ネパール総務省の事務次官が議長を務め、EROPAの認知度向上、会員への情報提供、事務局の運営管理などを議題に、効果的な取り組みについて話し合われました。具体的には、公共行政に関する討論会の様子を EROPA のホームページで公開する「#TAG Dialogue」という新たな試みや、Facebook や Twitter、公共行政ネットワーク (UNPAN) など多岐に亘る情報発信ツールの活用などが採択されました。これらの内容は、総会で事務総長から報告され、総会決議として採択されることで正式に決定されました。



第65回執行理事会の様子

今年の会議テーマは「行政の未来～地域の回復力・公平性・持続可能性の再考～」であり、55人の各国政府機関者や研究者が、基調講演や分科会で各国政府の政策や研究成果を発表しました。とりわけ災害や環境問題についての発表が多く、日本と同様に地震や洪水被害の多いアジア各国における危機管理体制の構築や迅速な復旧に向けた行政の役割などが再認識されました。日本からも4人の大学教授が、観光客集中による環境破壊問題や官民連携による効率的な水道事業などをテーマに論文発表を行いました。各国の専門家の知識を共有することで、今後のアジア地域における行政サービスのさらなる向上が期待されます。

国際会議運営の裏では

各国から大人数が集まる国際会議では、渋滞による講師の到着遅れなど不測の事態は避けられず、常に臨機応変な対応が求められます。今回の会議会場がフィリピン大学だったこともあり、学生の協力も不可欠なものでした。早めに会場へ到着した参加者に対し、空き時間でキャンパス案内を提案するなど積極的に事務局へ協力していました。歓迎夕食会におけるおもてなしや会議中の細かな気配りなど、関係者一人ひとりの柔軟な対応も、国際会議成功の秘訣だと感じました。



歓迎夕食会におけるフィリピン楽曲の披露